

令和7年度 長与町高田保育所自己評価結果

平成20年3月に告示された保育所保育指針において、保育士等及び保育所の自己評価の実施並びにその公表が努力義務として位置づけられました。このことを踏まえ、高田保育所では保育の質の向上を図るために、保育所の自己評価を実施しました。

自己評価を通して、自分たちの保育のよさや課題に気づき、次の保育計画へ活かし、改善していくことで、保育所の専門性・組織力を高め、保護者の皆様や地域の皆様との信頼関係がよりよく、深まるよう努めます。

【実施職員数】28名

【評価項目】保育所保育指針に示された項目に沿って設定

【評価期間】令和7年1月1日～12月27日

【評価の判定】1. ほぼ実施（100%～90%） 2. おおむね実施(90%～61%) 3. あまり実施せず(60%～21%) 4. ほとんど実施せず(20%～0%)

5. 該当せず(自己評価を行った職員が現在行っている保育業務に質問項目の内容が含まれない・集計からは除外する)

【評価方法】1～4の回答数を分母とし1～4の割合を出す。さらに章・節ごとに1～4の平均割合を出し、次のように決定する。

1…1のみで40%以上かつ1と2の全項目の合計平均が80%以上の場合。

2～4…1に該当せず、2～4の中で一番割合が大きいもの。

この結果をもとに、保育実践状況等を踏まえて、章・節ごとに保育所としての自己評価とする。

【公表内容】項目は138項目にわたるため、代表的な4または5項目とその結果、保育所としての自己評価と意見・改善点。

なお、回答率(割合%)は小数点第1位を四捨五入したため、合計が100%にならない場合がある。

項目		評価(割合)				意見・改善点
第1章 総則(全4項目)		1	2	3	4	全体を通して評価は高いといえる。 保育目標である「家庭的な雰囲気のもと一人ひとりを大切に、生きる力を持った子どもを育てる」に基づき、また「子ども主体の保育」「遊びからの学び」を念頭に計画を立て実施している。 3については、特に新規採用職員に対し、「ねらい」や「内容」を知らせる機会を提供していきたい。
1	「保育方針」「保育計画」に基づき保育を行っていますか	35%	65%	0%	0%	
2	子どもの最善の利益を考慮し、人権に配慮した保育ができていますか	46%	54%	0%	0%	
3	保育の「ねらい」や「内容」を保護者に分かるように説明できますか	26%	61%	13%	0%	
4	入所・利用している子どもの個人情報の(あなた自身の)管理は、適切だと思いますか	68%	32%	0%	0%	
保育所としての自己評価		1 ほぼ実施				
第2章 子どもの発達(全7項目中5項目掲載)		1	2	3	4	第2章は保育の土台となるところである。乳幼児期の育ちは重要であり生涯の幸福度に影響を与えられている。保育者はそのことを理解し、実践に努める必要がある。自己評価結果はほぼ実施となり、各項目の評価も高いといえる。 5については個別支援計画を立て、視覚的情報を多用し、対象児のみならずすべての児童の支援になるように努めている。
1	子どもの発達は、豊かな心情、意欲、態度を身につけ新たな能力を獲得していく過程であることを理解していますか	68%	32%	0%	0%	
2	子どもの情緒を安定させ、人への信頼感を育てるために一人ひとりの子どもを愛し、信頼していますか	79%	21%	0%	0%	
3	子ども同士の関係の基礎となるように、あなたは一人ひとりの子どもと信頼関係を構築していますか	44%	56%	0%	0%	
4	発達過程区分は、同年齢の均一的な発達の基準ではなく、一人ひとりの子どもの発達過程として捉えていますか	68%	32%	0%	0%	
5	発達上課題のある子どもに対しても子ども自身の力を充分に認め、適切な援助及び環境構成を行っていますか	21%	79%	0%	0%	
保育所としての自己評価		1 ほぼ実施				
第3章 保育の内容		評価(割合)				評価については、全体を通して高いといえる。 「養護」の面では、「一人ひとりを大切に」という保育目標のもと、子どもが保育所で快適かつ健康で、安全に生活ができ、情緒の安定が図れるよう配慮している。0～2歳児クラスでは担当制を導入し、子どもの小さな変化、要求に応えられるようにしている。 「教育」の面では、子どもの主体性を重んじ、遊びや体験を通して様々な能力を育むことができるように環境と日課を工夫している。
	1. ねらい・内容(全3項目)	1	2	3	4	
1	保育所保育は「養護と教育」が一体となって展開されることに留意していますか	46%	54%	0%	0%	
2	「養護」とは、子どもの生命の保持と情緒の安定を図るための援助であることを理解していますか	61%	39%	0%	0%	
3	「教育」とは、子どもが健やかに成長し、活動がより豊かに展開されるための援助であることを理解していますか	68%	32%	0%	0%	
保育所としての自己評価		1 ほぼ実施				
	(1)養護(生命の保持・情緒の安定) (全8項目中5項目を掲載)	1	2	3	4	1については保護者への確認と子どもの視診を行っている。 3については、わらべうたを全学年で取り入れており、特に低年齢児にはあたたかい語りかけとふれあいを通して情緒の安定を計っている。 4・5については、子どもが困っているときほど大人がどのような対応をするかで信頼関係や自尊心が培われるものである。スキンシップを取り、会話をして共感するなどしている。
1	登園時の子どもの健康観察を行っていますか	54%	46%	0%	0%	
2	子どもが触れたりする物や場所など、衛生的な環境を保てるように常に気をつけていますか	35%	65%	0%	0%	
3	子どもとの温かなやり取りやスキンシップを常に心がけていますか	64%	36%	0%	0%	
4	「できない」「やって」などと言ってくるとき、その都度気持ちを受け止めて対応していますか	39%	61%	0%	0%	
5	登園時、泣く子どもに対して、放っておいたり、叱ってしまうことがないようにしていますか	73%	27%	0%	0%	
保育所としての自己評価		1 ほぼ実施				

項目		評価(割合)				意見・改善点
	(2)教育 1)健康 (全8項目中5項目を掲載)	1	2	3	4	評価については、全体通して高いといえる。
1	十分に身体を動かせるよう、時間と場所を確保するなどの配慮をしていますか	30%	70%	0%	0%	1・2については、全クラス十分な活動時間を保障することにより、健康的な生活リズムができています。0・1歳児は保育室横に専用園庭があり、毎日安全に戸外遊びができています。幼児クラスは身体を動かす楽しさを味わえるよう今年度から体育教室を導入した。
2	友達と一緒に体を動かすことを楽しめるように働きかけていますか	25%	75%	0%	0%	
3	健康な生活のリズムを身につけるよう、子どもの一日の生活の流れを考えながら保育していますか	44%	56%	0%	0%	
4	食事の前や排せつの後の手洗いを励行するなど、清潔の習慣が身につくよう援助していますか	56%	44%	0%	0%	
5	食事・おやつ準備や片付けに参加したり、自分たちでできるよう配慮していますか	42%	58%	0%	0%	
保育所としての自己評価		1 ほぼ実施				
	(2)教育 2)人間関係 (全9項目中5項目を掲載)	1	2	3	4	評価については、全体を通して高いといえる。
1	子どもが、保育士や友達と共に過ごすことの喜びを感じることができるような配慮をしていますか	40%	60%	0%	0%	友達への関心が芽生える1歳くらいから保育者が子ども同士をつなぐよう努めている。 また、子どもの成長に合わせ、子ども同士の関わりが生まれるような環境構成を行っている。場面により大人の介入を控え、見守りを多くすることで、子ども自身が気づいたり、教え合ったり、解決し合う機会を提供している。
2	友達と一緒に喜んだり悲しんだりすることができる機会を作っていますか	29%	71%	0%	0%	
3	つまづきや葛藤、ケンカなどを、子どもの育ち(発達)に欠かせない物としてとらえ、対処していますか	46%	54%	0%	0%	
4	友達と積極的に関わることで、友達の良さに気付くよう援助していますか	33%	67%	0%	0%	
5	共同の遊具や用具を大切に使うことを、活動を通して体験できるよう配慮していますか	40%	56%	4%	0%	
保育所としての自己評価		2 おおむね実施				
	(2)教育 3)環境 (全8項目中5項目を掲載)	1	2	3	4	他の項目と比較して、「3あまり実施せず」の割合が多かった。
1	身近な自然を通して、その美しさ、不思議さなどに気づくことができるようにしていますか	29%	58%	8%	4%	令和4年度から自然活動の専門講師を招いて4・5歳児対象に活動を8回行っている。子どもが体験した同じ内容を職員研修でも実施し、保育で実践できるよう配慮しているが評価が低い。週案などの計画で実践を促したい。
2	水や砂や土などを使って、その性質や仕組みに合った遊びを展開できるように工夫していますか	9%	68%	18%	5%	
3	身近な動植物を飼育・栽培するなど、それらに興味や関心を持つことができるように配慮していますか	15%	69%	15%	0%	
4	子どもが身近な動植物に自分から触ろうとすると、何に一番気を付けなければいけないか、いつも考えていますか	17%	83%	0%	0%	
5	園庭や散歩で集めた木の実を数えたり、数量や図形などに関心を持つように工夫していますか	20%	50%	30%	0%	
保育所としての自己評価		2 おおむね実施				
	(2)教育 4)言葉 (全11項目中5項目を掲載)	1	2	3	4	評価は全体を通して高いと言える。
1	子どもの表情や姿をよく観察し、その場に適した言葉かけを心がけていますか	43%	57%	0%	0%	言葉の発達の土台のひとつにコミュニケーションからもたらされる喜びを体験することがある。保育者が子どもをよく観察し語りかけること、共感することを通して培ってきたいと考えている。 4については、毎週火・金曜日に図書コーナーを開放し、絵本を通した親子の交流の機会を提供している。また、月2回の町の移動図書館を活用し、多くの名作に触れられるよう配慮している。
2	子どもがしたいこと、してほしいことを話している時、最後までゆったりと聞くよう努めていますか	43%	57%	0%	0%	
3	子どもが人前で話す時は、相手に分かりやすく話せるように援助していますか	29%	71%	0%	0%	
4	子どもの興味や関心に合わせた絵本や物語の選定をしていますか	26%	74%	0%	0%	
5	「ごめんなさい」「ありがとう」など、生活に必要な言葉をいつもつかえるように保育していますか	56%	44%	0%	0%	
保育所としての自己評価		1 ほぼ実施				
	(2)教育 5)表現 (全7項目中5項目を掲載)	1	2	3	4	表現については、まず、感じたことや考えたことに間違いはないこと、一人ひとりが違っていていいこと、友達と分かち合うことが楽しいと思えるよう保育者の言動に努めていきたい。
1	歌ったり、踊ったりして、音や動きの楽しさに気づき、楽しめるよう援助していますか	23%	73%	5%	0%	幼児クラスでは工作コーナーを設け、時期によりテーマを提案することで取り組みやすさを目指している。 歌や踊りは地域のまつりや保護者参観で見てもらうことで、意欲や達成感に繋がっている。
2	子どもが作ったり表現したものを、お互いに見せ合ったりするような機会をつくっていますか	7%	93%	0%	0%	
3	感じたことや考えたことを、自由に描いたり、つくったりできる機会を設けていますか	31%	69%	0%	0%	
4	自由に描いたり作ったりできるように、材料や用具を子どもが自由に取りだせる場所に置くなど工夫していますか	29%	71%	0%	0%	
5	子どもがいろいろな素材に触れ、親しみ、イメージを豊かに持てるよう配慮していますか	11%	67%	22%	0%	
保育所としての自己評価		2 おおむね実施				
	2. 保育の環境 (全5項目)	1	2	3	4	1については、「あまり実施せず」が多かった。インテリアは実施する機会が少ない職員が多く、結果に影響を与えたと思われる。
1	季節に合わせて、保育室のインテリアなど環境に工夫していますか	12%	53%	29%	6%	3・4については、各クラスにままごと、世話遊び、積木、手先を使う遊び、運動遊びなど、子ども達が主体的に自分で選んで遊べるよう環境を整えている。幼児組は工作コーナー、美容室や郵便局など仕事のコーナーを設け、子ども同士が協力して遊ぶ楽しさと達成感を味わえるようにしている。
2	保育中のあなた自身の声の大きさは、子どもにとっていつも適切な大きさですか	14%	82%	4%	0%	
3	子どもの発達に即した玩具・遊具・用具を用意していますか	22%	70%	9%	0%	
4	こどもの興味に合わせて、好きな遊びができるコーナーを設けるよう工夫していますか	13%	81%	6%	0%	
5	日々の保育の中に、子どもが自由に遊べる時間帯を設けていますか	52%	48%	0%	0%	
保育所としての自己評価		2 おおむね実施				

項目		評価(割合)				意見・改善点
第3章 保育の内容		評価(割合)				評価は全体を通して高いと言える。
	3. 乳児保育（全12項目中5項目を掲載）	1	2	3	4	乳児保育は担当制を導入していて、授乳、食事、排泄、睡眠は保育士と子どもが1対1で行えるよう日課を工夫し丁寧に行っている。
1	おむつの交換は、優しく声を掛けながら行っていますか	63%	38%	0%	0%	
2	一人ひとりの生活リズムに合わせて睡眠がとれるように、静かな空間を確保していますか	54%	46%	0%	0%	
3	睡眠時に乳児の様子を把握する方法は、どの職員もすぐに理解できる適切な方法で行っていますか	56%	44%	0%	0%	
4	仕草や声や動きを介して発する欲求を察知し、タイミングよく応答していますか	24%	76%	0%	0%	
5	子ども一人ひとりの育ちについて、職員間で連携を取り職員全体で見守る体制ができていますか	58%	42%	0%	0%	
保育所としての自己評価		1 ほぼ実施				育児や世話を丁寧にしてもらうことにより、子どもは自身の存在を尊いものとしてとらえることができる。丁寧な育児は自尊心、自己肯定感を育む第一歩である。そのことを保育者が理解して育児ができるようクラス会議や保育観察で確認を行っている。
	4. 障害のある子どもの保育（全6項目中5項目を掲載）	1	2	3	4	障害のある子どもに対し、個別支援計画を立てて保育を行っている。また、関係機関からの助言・指導をいただきながら援助を行い成果につながる事例が多かった。
1	園での生活仕方について、障害のある子どもの特性に合わせた個別支援計画を立てて保育を行っていますか	50%	50%	0%	0%	
2	障害のない子どもも障害のある子どもも、互いの良さを感じ取るように配慮していますか	44%	50%	6%	0%	
3	あなたは、担当しているクラスの障がいのある子どもが持つ障がいについて、保育士としての十分な知識を持っていますか	10%	90%	0%	0%	
4	障害のある子どもの保護者の気持ちを受け止め、信頼されるよう努めていますか	58%	42%	0%	0%	
5	障害のある子どもの保護者と話し合う場を日常的に設け、保護者への支援を心がけていますか	40%	60%	0%	0%	
保育所としての自己評価		1 ほぼ実施				行事や日々の保育活動については、成長発達や興味関心に添ったものを考慮している。
	5. 子どもの人権（全4項目）	1	2	3	4	全国保育士会発行の「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を用いて、セルフチェックを行ったあと、クラス会議で確認を行っている。どのような場面で苦慮するかを保育者同士で出し合い、お互いに助け合える雰囲気作りも行っている。
1	「男(女)の子だから〇〇しなさい」などと、行動(態度)について、性差への先入観による固定的な対応をしないように配慮していますか	54%	43%	4%	0%	
2	子どもの国籍や文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てよう配慮していますか	37%	63%	0%	0%	
3	子どもの人権への配慮や、互いに尊重する心を育てよう配慮していますか	37%	59%	4%	0%	
4	あなたは、子どもの権利養護に関する研修に参加したことがありますか(CAP可)	22%	48%	9%	22%	
保育所としての自己評価		2 おおむね実施				4については、人権の研修は年に1回行っているが、周知や受講者からの共有を行っていきたい。
第4章 保育の計画及び評価		評価(割合)				
	1. 保育の計画（1)保育課程（全5項目）	1	2	3	4	指導計画や個人記録は、「子どもの姿」「読み取り」「保育者の願い」「今後の手段、計画」を記録することで、保育者自身が気づきを得て、保育に活かせるよう、確認を行ってきたい。
1	指導計画を養護的側面(基礎的事項)と教育的事項(5領域)の両面を考慮して作成していますか	18%	73%	9%	0%	
2	週案などの指導計画は、子どもの興味や関心、意欲に合わせて活動が展開できるように作成していますか	15%	85%	0%	0%	
3	あなたの指導計画の反省・評価は、次の指導計画作成に反映できるものとなっていますか	8%	83%	8%	0%	
4	日々の個人記録を、子ども一人ひとりの発達過程の把握に生かしていますか	38%	63%	0%	0%	
5	子どもの個人記録などは、個人情報保護法や守秘義務に基づいて管理していますか	82%	18%	0%	0%	
保育所としての自己評価		2 おおむね実施				
	2. 小学校との連携（全4項目）	1	2	3	4	評価は全体を通して高いと言える。
1	保育所保育が小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることを理解していますか	63%	38%	0%	0%	
2	普段の保育記録が「保育所児童保育要録」の記入に役立つように整理されていますか	15%	77%	8%	0%	
3	あなたは園長や主任との間で、質問したり意見を交わしたりできますか	30%	52%	9%	9%	
4	あなたは、園長や主任からの意見を、謙虚に受け止めることができますか	59%	41%	0%	0%	
保育所としての自己評価		1 ほぼ実施				小学校との連携については、令和6年度から長与町役場こども政策課が「長与町幼保小連携推進協議会」を発足し、中学校区内で学校見学、保育見学を行い連携を深めており、7年度も継続実施した。子ども達が不安や無理なく就学を迎えられるよう今後も努めたい。

項目		評価(割合)				意見・改善点
第5章 健康及び安全		評価(割合)				評価は全体を通して高いと言える。
	1. 子どもの健康支援（全4項目）	1	2	3	4	1については、保護者への聴き取り、視診をもとに子どもの体調に合わせて食事・睡眠・活動を調整している。特に乳児組については、健康状態が生活や活動に大きく影響するので臨機応変に対応している。
1	子どもの日々の健康状態を把握し、それを一人ひとりの保育に生かしていますか	48%	52%	0%	0%	2については、送迎時に伝えるほか、玄関にて感染者数と対策を掲示している。
2	感染症が発生した時、発生の状況や予防対策などをすぐに保護者に連絡していますか	38%	56%	6%	0%	
3	家庭では、子どもが十分に睡眠をとるなどして健康な生活リズムを身につけるよう保護者への啓発に努めていますか	15%	75%	5%	5%	4については、日々の共有のほか、薬の保育所保管や慢性疾患について一覧表を作成し、いつでも確認できるようにしている。
4	子ども一人ひとりの健康状態などを、職員相互で確認していますか	54%	43%	4%	0%	
保育所としての自己評価		1 ほぼ実施				
	2. 環境及び衛生管理（全4項目）	1	2	3	4	今年度は消毒について、用途に応じて消毒液の種類や濃度について見直しを行った。古い情報のまま漫然と実施することなく、通知や研修を参考に必要な衛生管理を行っていきたい。
1	子どもが活動しやすいように、その都度、保育室の換気や温度・湿度に配慮していますか	42%	58%	0%	0%	
2	適宜、手洗い場やトイレを清掃し、清潔に保つようにはしていますか	64%	36%	0%	0%	
3	砂場は、動物の侵入を防いだりするなど、衛生面に配慮していますか	42%	54%	0%	4%	
4	玩具・遊具については、適宜、衛生面に配慮していますか	24%	68%	8%	0%	
保育所としての自己評価		1 ほぼ実施				
	3. 安全管理（全5項目）	1	2	3	4	安全計画を作成し、点検や訓練等を行っている。週1回の安全点検と年1～2回の危険個所洗い出しによって改善を行っている。
1	子どもが危険な場所、危険な遊びが分かり、安全に気を付けて行動するよう指導していますか	35%	65%	0%	0%	火災通報消火避難訓練と心肺蘇生訓練は北消防所職員立ち合いの下行った。
2	手洗い場の滑り止めをはじめ、必要な個所の転倒防止の対策をしていますか	39%	61%	0%	0%	
3	交通安全の習慣が子どもの身につくように指導していますか	27%	73%	0%	0%	事故訓練は「熱中症」「乳幼児突然死症候群」「頭部殴打」「水の事故」「食物アレルギー」「熱性けいれん」とAED使用や救急搬送を含めて訓練を行った。万が一の事態に備えて今後も訓練を重ねたい。
4	災害時に安全に避難できるようにするための訓練を行っていますか	69%	27%	4%	0%	
5	不審者が園内に侵入した際、あなたはどのように対応するのかを理解していますか	43%	50%	7%	0%	
保育所としての自己評価		1 ほぼ実施				
	4. 食育の推進（全5項目）	1	2	3	4	保育所における食育を通して育てたい子ども像は以下のとおりである。 ①お腹がすくリズムのもてる子ども ②食べたいもの、好きなものが増える子ども ③一緒に食べたい人がいる子ども ④食事づくり、準備にかかわる子ども ⑤食べたいものを話題にする子ども 以上を保護者や職員に周知し、食育を行っている。
1	子どもが落ち着いて食事・おやつを楽しめるように、雰囲気作りなどを工夫していますか	48%	52%	0%	0%	園庭の菜園で育てた野菜を使った調理や梅の実や野草を使った食育、みそや豆腐など原材料を作る活動など、子ども達の生きる力を育む食育を行っている。
2	子どもが栽培・収穫したもの、調理したものを食べるなどの機会を作るよう心がけていますか	58%	42%	0%	0%	
3	絵本など視聴覚教材を通じて、食べ物に興味や関心を持つことができるように働きかけていますか	22%	65%	13%	0%	
4	その日の昼食の食べ具合などを、必要に応じて保護者に知らせていますか	64%	36%	0%	0%	
5	子どもが楽しく食べることができるように、食育の計画を作成していますか	30%	60%	10%	0%	
保育所としての自己評価		1 ほぼ実施				

項目		評価(割合)				意見・改善点
第6章 保護者に対する支援		評価(割合)				2については、送迎の際に担任に会えるよう保育室前まで保護者に入っていたい。また、希望者に対し個人面談を行っている。 4については、0、1、3、4歳児は年1回、2、5歳児は年2回実施した。 5については、特に新規採用職員に対して不安なく説明ができるよう共有を行いたい。
	1. 保育所に入所している子どもの保護者に対する支援（全7項目中5項目を掲載）	1	2	3	4	
1	送迎の際に、保護者と必ず言葉を交わすようにしていますか	57%	43%	0%	0%	
2	あなたは、保護者の子育ての悩みや心配事を安心して話せる存在になるよう心がけていますか	35%	65%	0%	0%	
3	保護者からの相談内容などを、担任一人の問題にしないで、園全体で受け止めようとしていますか	43%	57%	0%	0%	
4	子育てについて、保護者と共通理解を得るために、懇談会などの機会を設けていますか	38%	62%	0%	0%	
5	自分の保育実践の内容や意図を、分かりやすく保護者に説明することができますか	17%	78%	6%	0%	
保育所としての自己評価		2 おおむね実施				
	2. 地域における子育て支援（全2項目）	1	2	3	4	評価は全体を通して高いと言える。 1については、町作成の「子ども虐待対応マニュアル」を活用し、定期的な確認を行いたい。 2については、病気やけがの際は事前に確認した連絡方法にて行っている。
1	虐待を疑われる子どもの情報を得た時、要保護児童対策地域協議会や児童相談所などの機関に照会、通告を行う園の体制を理解していますか	46%	50%	4%	0%	
2	一時保育のときにも、子どもの発熱や怪我の際に、保護者に連絡を取る方法を知っていますか	45%	50%	5%	0%	
保育所としての自己評価		1 ほぼ実施				
	3. 地域や関係機関と連携（全4項目）	1	2	3	4	2については、次世代育成、少子化対策の観点からも、児童との交流を十分に楽しめるよう配慮している。 4については、実習生受け入れの際は、事前に面談を行い、実習生の学年、経験、知識、実習の目的やねらいの共有を行い、職員が指導の指針が持てるようにしている。また、将来保育士になる学生が夢と希望を持てるような指導ができるよう保育者自身の保育の在り方を振り返る機会にしている。
1	子どもの医療や保健に関する問題について、連絡・相談すべきところを知っていますか	26%	65%	4%	4%	
2	園の周辺の住民と良好な関係を築けるよう、日常の挨拶などを心がけていますか	48%	52%	0%	0%	
3	中高生や大学生などの保育体験を受け入れるときには、その目的や意義を理解・確認していますか	36%	64%	0%	0%	
4	実習生を受け入れる時には、意義や方針を理解し、あなたが指導的立場にあることを意識していますか	36%	59%	5%	0%	
保育所としての自己評価		2 おおむね実施				
第7章 保育を支える組織的基盤（全6項目中5項目を掲載）		1	2	3	4	今年度は園内研修として、長崎県幼児教育アドバイザーを招いて「1歳児の保育観察を通しての環境構成と保育士の援助」と「ドキュメンテーション(写真を活用した保育記録)の作成の方法」をテーマで園内研修を行い、後日共有も含め全職員が受講した。今年も保育環境や保育士の声掛けなどに対しよい評価をいただいた。そのほかに、わらべうた勉強会、自然活動研修、職員同士での保育観察などを実施した。また、外部研修としては、保育協会などの研修に参加し研鑽を積んだ。 2・5において、評価が低いのは園外の研修参加の機会の減少と考えられる。共有を行うことで補完していきたい。
1	会議などでは、子どもの最善の利益を尊重して発言していますか	38%	63%	0%	0%	
2	園の内外における研修・研究活動に積極的に参加していますか	12%	58%	27%	4%	
3	同僚のそれぞれの役割と、あなたが果たすべき役割とを理解していますか	35%	65%	0%	0%	
4	国や自治体の公刊物、インターネットなどで、保育関係の情報を日頃から収集するように心がけていますか	11%	67%	22%	0%	
5	子どもの発達保障や子どもの最善の利益を考慮した保育をすすめるために園内外の研修に参加していますか	12%	48%	24%	16%	
保育所としての自己評価		2 おおむね実施				